

## 令和4年度 第1回 日進市地球温暖化対策地域協議会 議事録

- 日 時 令和4年9月28日（水）  
午前10時から11時35分まで
  - 会 場 市役所本庁舎 4階第2、第3会議室
  - 出席委員 原理史（会長）、成田暢彦（副会長）、桑山和文（委員）、浅野史剛（委員）、倉知英治（委員）、今村慎吾（委員）、野村大輔（委員）、小林成昌（委員）、刑部雄幸（委員）、樽見千春（委員）、浅見武史（委員）、石黒悠子（委員）
  - 欠席委員 菅田亘（委員）
  - 事務局 鬼頭聡（生活安全部次長）、近藤伸治（環境課長）、河村秀根（環境課課長補佐）、祖父江篤人（ESD推進係係長）、宮田大（ESD推進係主任）
  - 傍聴者 1人
  - 内 容
- 開会**

□出席委員の確認13名中12名の出席。日進市附属機関の設置に関する条例施行規則第4条第2項の成立要件を満たしていることを確認。

### 議題

- (1) 令和4年度事業計画進捗状況について
- (2) 各委員の取組について

会 長：それでは、議題（1）「令和4年度事業計画進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

（事務局より説明）

委 員：次期環境基本計画のなかに地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を盛り込むのであれば、今ある自然環境を保全することで、CO<sub>2</sub>の排出を削減するという位置付けがあるとよいと思いますが、今年度の事業計画の中には入らないのでしょうか。

事務局：今年度の事業計画については記載のとおりですが、次期環境基本計画では、大きな柱として地球温暖化対策だけでなく、生物多様性等の自然環境に関することも盛り込む予定です。こちらの具体的施策で位置付けることを検討していきます。

会 長：自然環境がどういう位置付けかというご指摘だと思いますが、温暖化対策の観点では吸収による緩和の他、気候変動の影響が現れるということで適応策に関係します。現計画ではそれが明確に位置付けられていないと思いますので、次期環境基本計画のなかには適応策についても適切に位置付けるようにしていただきたいです。

委 員：自転車の購入や免許返納者に対するキャリーカートの購入についても補助事業があると

よいと思います。また、くるりんばすの運行ルート外で地域福祉の面で移動支援が行われていますが、移動支援は乗り合いなのでCO<sub>2</sub>削減にもつながると思います。そこで環境の面からも補助できると、移動支援が自治活動としてさらに広がり、よりCO<sub>2</sub>削減にもつながると思います。

事務局：くるりんばすだけで地域交通の需要を満たすのは難しいため、地域公共交通計画に基づき、地域の実情に応じたデマンドタクシーの実証実験を行っています。また、公共交通は地域全体で支えるものですので、行政だけでなく、企業、教育機関や市民の方々とも知恵を絞って取り組んでいき、CO<sub>2</sub>削減にもつなげたいと思います。

会長：それでは、次の議題に入りたいと思います。「議題（2）各委員の取組について」事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

会長：それでは、各委員の取組について順番に要点や特に伝えたいこと等をお話いただきたいと思います。

委員：弊社の事業は省エネと効率化について非常に関係が深いと思います。現場作業のために社用車で移動することがありますが、移動の無駄をなくすため、誰がどこに動いているかを正確に把握したうえで、効率的に移動できるように工程を組んでいます。また、エコドライブについて、急ブレーキ、急ハンドル、急加速を感知するようなドライブレコーダーを全社用車に設置し、帰社時に運行管理者がそれらを日々チェックしています。燃料の削減になり省エネにつながりますし、安全運転にもつながるため、積極的に取り組んでいます。

委員：弊社ではガス空調の開発を行っています。省エネ機器を開発しCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。また、自動車の取組について、水素自動車の普及に合わせて水素ステーションの整備に積極的に取り組んでいます。

委員：弊社では非対面取引であるインターネットバンキングを推進しています。窓口に来なくても手続きができるようにすることで移動でのCO<sub>2</sub>削減につながります。

委員：弊社では、すべての活動をCO<sub>2</sub>排出量の数値で表現しています。これによって、ペーパーレスや緑のカーテンの取組よりも機械をこまめに止める方が社内では効果的だということが分かりました。重み付けと見える化が大事だと思います。

委員：弊社では2040年のカーボンニュートラル達成に向けて再エネや省エネ、技術革新等に取り組んでいます。

委員：弊社では親会社の方針に則り地球温暖化対策に取り組んでいます。CO<sub>2</sub>排出量については、2013年比で2030年に60パーセント削減、2040年にカーボンニュートラル達成を目標に取り組んでいます。工場での熱処理工程で最もCO<sub>2</sub>を排出しており、炉で焼くときになるべく隙間なく物質を詰めることで効率よくしています。生産工程では1個あたりのCO<sub>2</sub>排出量を算出しています。また、カーボンニュートラル達成には全社で取り組まないといけないという認識のもと、担当役員全員で課題の共有や取組を打ち立てて推進しています。

委員：市民の立場としては、小さなことをコツコツと取り組んでいくこと、また自治会単位

で広めていくことが大事だと思います。個人的には車の買替えの際に、電気自動車を検討しましたが、遠出したときの充電等、環境整備がまだ足りていないと感じ、断念してハイブリッド車にしました。運転の仕方でもかなり燃費が変わるのでハイブリッド車でもエコドライブを意識しようと思います。

委員：家族で自宅にいるときには、一つの部屋で集まってエアコンの使用を控えています。また、車の運転の際には、エコドライブ機能を利用し自然とエコドライブになるようにしています。

委員：二重窓、二重サッシなど断熱性を高めた住宅にして、24時間換気システムを利用し、開口部は開けないようにしています。

委員：プラスチックごみ問題に非常に関心があり、プラスチックごみの削減に取り組んでいます。着るものは自然素材でできているものを選ぶようにしています。また、ヘチマでたわしを作って、アクリルたわしを使わないようにしています。

副会長：事業者の方の取組では、製品や組織のライフサイクルアセスメントの手法が普及してきたことが認識できました。一方で、市民の方の取組では、クールチョイスとして自宅の断熱や自動車の乗り方等の話をいただきました。市民の方の取組は、事業者に比べれば効果は少ないですが、取り組むことが大切です。プラスチックごみ問題としては研究課題として受け止めさせていただきました。

会長：CO<sub>2</sub>を削減することが目標ですが、地域の資源やエネルギーを効率化していくことが重要です。一部にしわ寄せがあってはいけないので、多様性を十分見きわめながら、今後も議論を進めていきたいと思っています。

(11時35分)